

January 21, 2021

【前日の為替概況】ユーロドル、反落 欧州ロックダウン強化やコロナワクチン接種の遅れ意識

20日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反落。終値は1.2106ドルと前営業日NY終値(1.2129ドル)と比べて0.0023ドル程度のユーロ安水準だった。欧州でのロックダウン(都市封鎖)強化や新型コロナウイルスワクチン接種の遅れなどが意識されて、ユーロを売る動きが広がった。明日の欧州中央銀行(ECB)定例理事会を前に持ち高調整目的の売りも出て、24時前に一時1.2077ドルと日通し安値を付けた。ただ、前日の安値1.2074ドルが目先サポートとして働くと、1.2118ドル付近まで下げ渋った。

なお、ユーロ豪ドルは1.5603豪ドル、ユーロNZドルは1.6879NZドル、ユーロカナダドルは1.5269カナダドル、ユーロポンドは0.8838ポンドまで下落した。

ドル円は反落。終値は103.54円と前営業日NY終値(103.90円)と比べて36銭程度のドル安水準だった。バイデン氏の米大統領就任式を前に様子見ムードが広がる中、しばらくは103.80円を挟んだもみ合いの展開が続いた。ただ、米株式市場で主要3指数が史上最高値を更新するなど、株価が堅調に推移すると対資源国通貨中心にリスク・オンのドル売りが優勢に。円に対してもドル安が進み、一時7日以来の安値となる103.45円まで値を下げた。なお、第46代米大統領に民主党のジョー・バイデン氏が就任した。バイデン新大統領は就任演説で「民主主義が勝利した。私の心は米国を1つにして国を結束させることにある。全ての米国民に加わってほしい」と述べ、国民に結束を呼びかけた。

ユーロ円は反落。終値は125.35円と前営業日NY終値(126.02円)と比べて67銭程度のユーロ安水準。新型コロナウイルス感染拡大による欧州景気の先行き不安がユーロの重しとなり、0時30分前に一時125.27円と日通し安値を付けた。その後の戻りも125.49円付近にとどまった。

カナダドルは堅調。WTI原油先物価格の上昇を背景に産油国通貨とされるカナダドルに買いが入ったほか、米国株高がドル売り・カナダドル買い、円売り・カナダドル買いを促した。対米ドルでは一時1.2606カナダドル、対円では82.13円まで値を上げた。

カナダ銀行(BOC)はこの日、市場予想通り政策金利を0.25%のまま据え置くことを決めたと発表。ただ、市場では「一部アナリストは小幅な利下げを予想していた」との声も聞かれ、金利据え置きを受けてカナダドル買いが入る場面もあった。声明では「現行の低金利が2023年まで続く」「回復を支援しインフレ目標を達成するために、適切な金融刺激策を維持する」との方針を改めて示した一方、「新型コロナウイルスや海外の力強い需要により、中期的な国内経済の見通しは明るさを増している」との見方を示した。

【本日の東京為替見通し】米新政権誕生でご祝儀相場か、日・欧・トルコ・南アは政策金利発表

本日のドル円もレンジを抜け出すのは難しいか。昨日は堅調な株式市場に支えられ、リスク・オンの円売りよりもドル売りが優勢となった。本日もバイデン米新大統領の就任式が、懸念された暴動やテロもなく無事に終わったことで、新政権へのご祝儀相場で株買いによるリスク・オンが予想される。欧州やオセアニア通貨は株買いに市場が傾いた場合は、リスク・オンのドル売りになるだろうが、ドル円はドル売り・円売りの両面の値動きにより明確なトレンドを作ることは難しそうだ。ドル円の上値は104.10円近辺から売りが観測され、下値も昨日に103.50円を割り込んだものの、103円前半を積極的に売り込むような地合いでもないだろう。

円のリスク要因としては日銀金融政策決定会合が本日まで行われ、本日会合後にサプライズがあった場合か。昨日の産経新聞は「日銀は大規模な金融緩和策の長期化を見据えて、金融政策の点検に乗り出した」「上場投資信託(ETF)や国債の購入手法の見直しが検討される公算が大きい」と報じている。しかし、14日の日銀支店長会議で、黒田日銀総裁は新型コロナウイルスの影響で落ち込む国内景気について「引き続き厳しい状態にあるが、持ち直している」とし、先行きは改善基調をたどるという見解を示した。多くの国民との判断とはかなりかい離を感じるが、改善基調をたどっているという現状で、新たな策を講じるのは14日の発言と見解が変わることでサプライズを期待するのは難しいか。

円以外の通貨は、本日はボラタイルに動く可能性がある。アジア時間では12月の豪雇用統計が発表される。週初には一部エコノミストが豪州とNZは他国よりも経済回復ペースが速く、豪失業率はすでにピークアウトし、「豪準備銀行(RBA)は4月には量的緩和を中止」「NZ準備銀行(RBNZ)は来年世界で最初に利上げを行う」という予測がオセアニア通貨買いを導いた。市場は雇用統計の結果には素直に動意づくことが予想される。なお、豪雇用統計は、1月4日からウイルス対策の1つとして支給されていたジョブ

キーパー制度が減額される前の数値であり、今後の失業率が変化する可能性もあることは念頭に置いておきたい。

欧州通貨は、先週の欧州圏の政治的な不安定さが、独・伊で一旦は収まっていることで、売りトレンドも弱まり方向感がなくなっている。本日は欧州時間に欧州中央銀行（ECB）定例理事会が行われるが、ラガルド ECB 総裁の会見が終わるまでは不安定な値動きになりそうだ。

また新興国ではトルコや南アが政策金利を発表する予定。両国とも現時点では据え置き予想が多い。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 12月貿易統計(通関ベース、予想：季節調整前9428億円の黒字、季節調整済7192億円の黒字)
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況(週次・報告機関ベース)
- 未定 ☆ 日銀金融政策決定会合(終了後、決定内容発表、予想：当座預金金利▲0.10%で据え置き)
- 未定 ◎ 経済・物価情勢の展望(1月、基本的見解)
- 15:30 ☆ 黒田東彦日銀総裁、定例記者会見

<海外>

- 09:30 ◎ 12月豪雇用統計(予想：失業率6.7%/新規雇用者数5.00万人)
- 16:45 ◇ 1月仏企業景況感指数(予想：92)
- 17:30 ◎ 12月香港消費者物価指数(CPI、予想：前年同月比▲0.3%)
- 18:00 ◎ ノルウェー中銀、政策金利発表(予想：0.00%で据え置き)
- 18:00 ◇ 11月南アフリカ小売売上高(予想：前年同月比▲2.5%)
- 20:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表(予想：17.00%で据え置き)
- 21:00 ◇ 12月メキシコ失業率(季節調整前、予想：4.30%)
- 21:45 ☆ 欧州中央銀行(ECB)定例理事会、終了後政策金利発表(予想：0.00%に据え置き)
- 22:30 ☆ ラガルド ECB 総裁、定例記者会見
- 22:30 ◎ 12月米住宅着工件数(予想：156.0万件、前月比0.8%)
- 22:30 ◎ 12月米建設許可件数(予想：160.4万件、前月比▲1.8%)
- 22:30 ◎ 1月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数(予想：11.5)
- 22:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数(予想：91.0万件/540.0万人)
- 未定 ☆ 南アフリカ準備銀行(SARB)、政策金利発表(予想：3.50%で据え置き)
- 24:00 ◎ 1月ユーロ圏消費者信頼感指数(速報値、予想：▲15.0)
- 米財務省2年、5年、7年債入札条件
- 欧州連合(EU)首脳会議(オンライン)

22日

<国内>

- 08:30 ☆ 12月全国消費者物価指数(CPI、生鮮食品を除く総合)
- 08:30 ☆ 12月全国CPI(生鮮食料品・エネルギー除く)

<海外>

- 06:45 ◎ 10-12月期ニュージーランド(NZ)CPI
- 09:01 ◇ 1月英消費者信頼感指数(Gfk調査)
- 09:30 ◎ 12月豪小売売上高

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

20日 05:54 メルケル独首相
「ロックダウン(都市封鎖)を2月14日まで延長する」
「ドイツは今行動が必要」

20日 15:53 菅首相
「株価は経済状況や企業活動により、市場で決まるもの」
「ETF 買入れは金融政策の一環で、手段は日銀に委ねられている」

20日 16:58 フォンデアライエン欧州委員長
「バイデン新政権との新たな強固な関係を期待」
「米国のパリ協定復帰は欧米関係にとって非常に強力なスタート地点」

20日 22:05 イタリア経済相
「2021年 GDP は政府予想の6%をやや下回る程度」

20日 22:26 ルッテ・オランダ首相
「夜間外出の禁止を要請」
「議会の承認を得て夜間外出禁止を最終決定」

20日 23:05 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領
「米ファイザーは十分な量の新型コロナワクチンをメキシコに供給する」
「バイデン米新大統領とは、経済や移民政策、そしてコロナ対策などで考えが一致」

20日 23:19 スナク英財務相
「新型コロナウイルス雇用支援制度の延長を計画」

21日 00:01 カナダ銀行(BOC、カナダ中央銀行)声明
「短期的な成長の弱さと回復を考慮して、大規模金融政策の支援が引き続き必要と判断」
「2%インフレ目標の持続的達成のため政策金利を下限で維持」
「現時点の予測では、政策金利維持は2023年まで継続」
「回復が順調に進むまで量的緩和プログラムを継続」
「回復の強さに自信を持てるようになれば、債券購入ペースは必要に応じて調整される」
「回復を支援しインフレ目標を達成するために、適切な金融刺激策を維持」
「新型コロナウイルスのパンデミックは、カナダおよび世界中で深刻な人的および経済的被害をもたらし続けている」
「不確実性は依然として高く、見通しはウイルスの経路とワクチンの効果的な展開のタイムラインに大きく左右される」
「効果的なワクチンとさらなる財政および金融政策の支援により、中期的な成長見通しは押し上げられた」
「1月の金融政策報告書(MPR)では、2021年と22年に世界成長率を年平均5%強、2023年には4%弱に減速すると予測」
「米ドルの大幅な下落と商品価格の上昇で、カナダドルはさらに上昇した」
「2021年第1四半期の成長は、現在、マイナスになると予想」
「第2四半期には力強い回復が見込まれる」
「短期的には、ワクチンの入手可能性が予想よりも早く、継続的な大規模刺激策のおかげで、見通しは10月の予測よりも力強く安定した」
「消費者物価指数のインフレ率は、ここ数か月で1-3%の目標範囲の下限まで上昇したものの、コアインフレ率は依然として2%を下回っている」

21日 01:16 マックレム BOC 総裁

「債券購入ペース減速について検討することは時期尚早」

「ウイルス封じ込め措置で、第1四半期に▲2.5%を下回るリスクがある」

「第2四半期には、消費がさらに強まると予想」

「経済が低調と判断すれば、BOCにはオプションがある。追加刺激策の選択肢がある」

「回復ペースに自信が持てるようになれば、量的緩和のペースは調整される」

「刺激策の規模について議論することによりかなりの時間を費やした」

「BOCはワクチンの状況を注意深く見守っている」

「当面の間、量的緩和プログラムが必要になる」

「投資の回復は少し早く来ると予想」

21日 02:03 バイデン米大統領

「民主主義が勝利した」

「我々は一つの国として平和的政権移行のため集結した」

21日 02:40 ベイリー英中銀(BOE)総裁

「コロナ感染の再拡大で経済状況・見通しは強弱入り混じっている」

「11月のデータはロックダウンの影響が減少していることを示している」

「英景気の見込みは回復が見られるだろう」

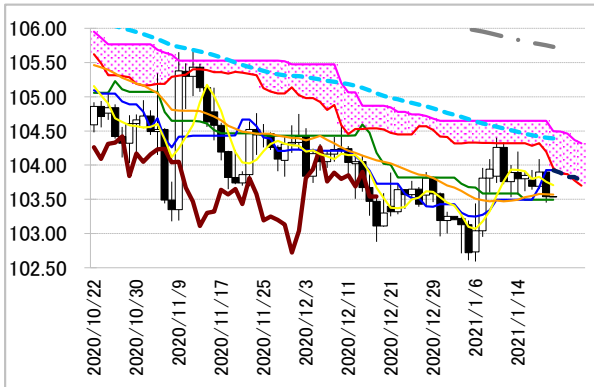
「マイナス金利については何も決定していない」

「金利がゼロに近づくと、金融政策のメッセージが明確になり難い」

「本日発表された物価指標は上昇していたが、インフレ率は非常に低い水準にある」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

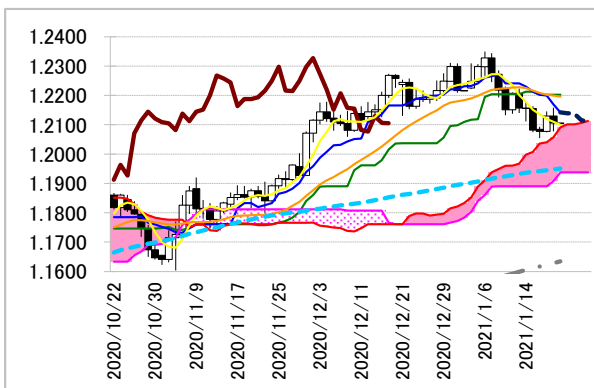


<ドル円＝運行スパン買い示唆を明確にして戻り試すか>

下影陰線引け。103.90円台へ上昇した一目均衡表・転換線へ追従できず、調整の下押しとなった。

だが、一目・運行スパンは、同指標付近のローソク足の終値を上回った。このまま一目・基準線 103.50円前後の底堅さを維持し、さらにもう少し戻すことができれば買い示唆がより明確となる。追加的な買いサイン点灯とともに転換線および一目・雲の下限 103.96円といった抵抗を試すことになるだろう。

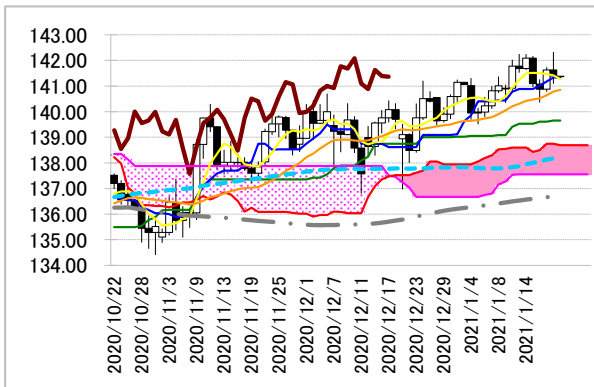
レジスタンス1	103.93(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	103.54
サポート1	102.95(1/7安値)
サポート2	102.59(1/6安値)



<ユーロドル＝転換線・雲近辺でもみ合い>

小陰線引け。1.2100-10ドル前後で低下中の5日移動平均線は強い抵抗にならず、一時1.2158ドルまで上昇した。しかし、一目均衡表・転換線の手前で伸び悩み、下値の一目・雲を試す展開となった。上昇中の雲の上限近辺で下げ渋り、上下にひげをとまなう気迷いの足型を形成してNYを引けた。転換線と、本日上限が1.2091ドルの雲に挟まれたレンジを中心にもみ合い、次に動き出す方向を探る展開か。

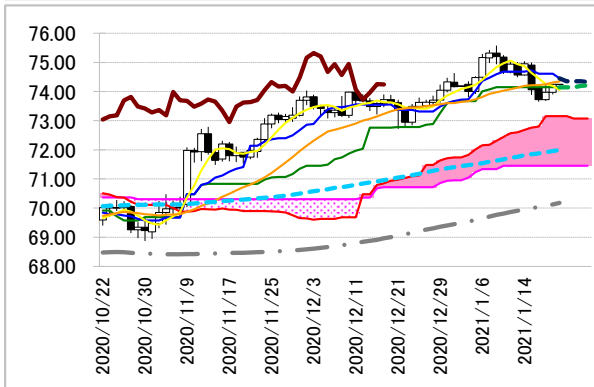
レジスタンス1	1.2142(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.2106
サポート1	1.2054(1/18安値)



<ポンド円＝転換線・21日線付近の底堅さ維持へ>

上影小陰線引け。一時142.33円と昨年9月1日以来の水準へ上振れた。伸び悩んだが、一目均衡表・転換線141.34円を下回る水準では下支えされ、141円割れを回避している。転換線付近から下押ししても、140.86円前後で上昇中の21日移動平均線付近での底堅さが期待できる。再び上値を狙えるとする。

レジスタンス1	141.86(1/20レンジ61.8%水準)
前日終値	141.39
サポート1	140.86(21日移動平均線)



<NZドル円＝基準・転換線の交差する水準への収れん予想>

小陽線引け。74円割れへ下押し場面もあった。しかし、今後じり高が見込まれる一目均衡表・基準線74.15円へ追従するように下げ渋った。一定の底堅さ維持を期待するが、じり安傾向の一目・転換線74.45円もやや上に位置しており抵抗となる。転換線と基準線の交差が予想される74.30円台へいったん収れんするような格好となり、上下放れる方向を見定める局面となろう。

レジスタンス1	74.84(1/8-18下落幅の61.8%戻し)
前日終値	74.25
サポート1	73.65(1/18安値)

